

## 1 取組・活動名

「学校防災訓練」

## 2 取組・活動のねらい

- 地震等の災害時に備えるため、防災に対する知識やいざという時の適切な避難行動が取れるようにする。
- 防災訓練を地域住民と実施することにより、地域の一員としての自覚を高め、協働で活動ができるようにする。
- ボランティアマインドの精神を養い、自ら判断し主体的に行動ができるようにする。

## 3 教育課程上の位置付け

「総合的な学習の時間・2時間」

## 4 実施上の工夫

- ・ 2部制とし、まず、地震を想定した避難訓練を行い、防災の目的や意識を高めてから、地域住民と合同の防災訓練を実施するようにしている。
- ・ 防災訓練は9つのグループをつくり、できるだけ少人数にして全員が説明を聞くだけでなく直接作業に関われるようにしている。
- ・ 防災訓練が開始されてからは、地域住民がリーダーシップをとり生徒と協働で作業をする。教員は、サポート役に回り、地域と生徒との触れ合いを大事にするようにしている。
- ・ 事前に道徳や学級活動等で、社会貢献やボランティア活動の大切さについて指導をして意識付けをしている。

## 5 本取組・活動の内容



### 「仮設トイレの設営」

- ・ 学校の備蓄倉庫の中にある仮設トイレを設置した。
- ・ 骨組みから組み立て、便器と壁面用のシートを据え付けると立派なトイレができ上がった。組み立ては、思ったよりは簡単であった。実際は、この仮設トイレだけでは足りないなので、1階のトイレを整備して使用することである。



### 「負傷者の搬送訓練」

- ・ 担架を使って負傷者を診療所に搬送する訓練を行った。
- ・ 生徒たちは、実際に人を担架に乗せて、運んでみると重くて大変であることが実感できた。
- ・ もし、災害が起きた場合には、多くの負傷者を何度も往復して搬送しなければならないので貴重な体験となった。



### 「初期消火訓練」

- ・ 生徒は、まず消防団員から、道路の散水栓から消防車のポンプにホースを設置する作業工程等の説明を聞き、実際に放水訓練の体験をした。
- ・ 思っていた以上に、水圧があって、目的の場所に放水をすることの作業の難しさを経験することができた。

## 6 成果

- ・ 災害に対する興味・関心が強まり、毎月、実施する避難訓練等の必要性和参加への意識が高まった。
- ・ 比較的少人数のグループごとの訓練のため、順番に直接体験することができ、防災上の予備知識が高まった。
- ・ 地域住民と一緒に活動し、地域の中で貢献することの大切さを知りボランティアマインドの醸成に役立てることができた。
- ・ 防災訓練を通して、地域住民に褒め・認められた体験により、自らの行動に自信が付き自己肯定感や自己有用感が高まった。
- ・ 地域住民と学校や生徒との信頼関係が深まり、様々な場面で地域との連携がスムーズに図れるようになった。